

横浜エデンの園の進化する医療

通院せずに健康維持オンライン診療スタート

2024年6月から横浜エデンの園では、隣接する聖隷横浜病院の泌尿器科とのオンライン診療を開始しました。オンライン診療とは何か?そのメリットは?など、導入を進めた波多野医師に話を伺いました。

波多野 孝史

HATANO TAKASHI

医師(61歳)

聖隷横浜病院院長補佐
医療の質管理室室長
泌尿器科部長



コロナ禍で広まった診療体系
全ての診療をオンラインで完結

聖隷横浜病院の泌尿器科でオンライン診療を始めたのは、コロナ禍の2020年12月です。外出禁止や感染リスクに対応できる診療として、厚生労働省や神奈川県も積極的に導入を勧めていました。オンライン診療はビデオ会議システムを利用し、予約から受診、検査、投薬、支払い、薬をもらうまで、自宅に居ながら全てを完結できる診療体系です。通常

の保険診療費に加え、システム使用料が別途5000円必要ですが、私はメリットの方が大きいと考えていました。

移動、待ち時間、感染リスク：
対面より患者さんの負担を軽減

対面診療との違いを患者さんの目線に立つ

て考えてみましょう。まず、家から病院まで行く必要がありません。移動の時間ももちろん、公共機関を利用する際は感染のリスクがあり、特に高齢の方は転倒も危惧されます。待合室で待つ必要も、診療が終わってから会計、薬をもらうまでの時間もありません。患者さんにとって、時間的、身体的、経済的負担が少ないのがオンライン診療なのです。

ご家族や職員も参加できる
見える生活環境から好治療に

もう一つの大きなメリットは、ご家族や職員の話や、映像を介して生活環境が見えることで、より適切なアドバイスができることです。ビデオ通話ですから複数の方と同時に情報を共有でき、患者さんが上手く説明できない時は代弁いただけます。また、実際に生活している様子がわかるので、ベッドの位置を変えたり、介護ケアを見直すことが病状改善につながるケースも多いのです。

気軽に受診し、早期発見
触診や検査が必要な時は対面に

現在、当院の泌尿器科で可能なオンライン診療は、「尿の出が悪い」「夜間の尿が近い」「尿漏れがある」などの症状です。排尿時の痛み、尿が出ないなどの症状は、検査や対面での診療が必要になります。排尿の悩みは、病院に行くべきか判断に迷う方が多いですが、そのまま放置してはいけません。まずはオンライン診療で対面診療が必要か判断し、大したことはないと思っていたことが、重病の初期症状という場合もあります。早期受診が早期発見に、健康維持につながるのです。

同意書やデジタル機器の壁
園の職員が強力サポート

横浜エデンの園とオンライン診療を始めたのは、ある大雨の日に来院された患者さんがきっかけでした。「こんな日は予約変更を」と提案すると、「薬が切れてしまう」とのこと。オンライン診療を勧めましたが、スマートフォンは使えない。その時、付き添いの園の職員が「園のタブレットでできます」と言ってくれたのです。オンライン診療には同意書の記入とデジタル機器の操作が必須で、それが高齢者にとって壁になります。横浜エデンの園の職員は、「ご入居者にわかりやすく説明し、ビデオ通話のサポートをしてくれるので、思っていた以上にスムーズに診療ができています。」

画面を通じ「これは楽だわ」
病院との距離は関係ない

横浜エデンの園と聖隷横浜病院は目と鼻の先。当初はオンライン診療の必要性を意識していませんでした。しかし、画面越しに「これは楽だわ」と喜ぶ患者さんの笑顔を見て、「これは必要だ」と確信しました。猛暑や台風はもちろん、短い移動でも転倒リスクは伴います。外出のために着替えたり、受診の準備をした

り、どんなに近くても、患者さんの負担は思った以上に大きいのです。距離は関係ありません。足の不自由な方にとっては特に有効な診療手段です。



**見守りシステムのデータを共有
介護の最先端を目指す園だから**

実際に横浜エデンの園とのオンライン診療をスタートして感じたのは、最新技術を駆使した取組です。診療を行う際、患者さんの詳細な生活状況を把握できると良いのですが、部屋のセンサーで動きがわかる見守りシステムのデータは、より適切な診断を行うためにも役立っています。その他にもITやAIを活用した取組をしており、既成概念にとらわれず常に新しいことに挑戦し、介護の質を向上していくという姿勢を感じます。

**患者さんと意思疎通する工夫
欠かせない職員の育成と協力**

オンライン診療で特に気をつけているのは、患者さんとのコミュニケーションです。ビデオ通話に慣れていない方が多く、まずは簡単に「はい」

Diapers、英語で「おむつ」の意味。排尿タイミングがわかり、おむつが不要になるように開発されました。横浜エデンの園でもいち早く賛同いただき、試験運用を開始しています。ご入居者にとってメリットのあることは、まずやってみる。最新機器の導入に意欲的な施設だと感じます。

**診療全体の質が向上
医療側にも大きなメリット**

患者さんにとって利点の大きなオンライン診療ですが、実は医療側にも大きなメリットがあります。それは、対面とオンラインの棲み分けによる診療全体の質の向上です。軽症の患者さんをオンラインで診ることで、本来に対面診療が必要な患者さんに多くの時間を割くことができ、重症な患者さんの待ち時間を減らすこともできます。厚生労働省も、オンライン診療を通じて医療の質を向上させるよう私たちに求めています。

**健康維持の手段として
進化するオンライン診療**

オンライン診療が特に力を発揮するのは、健康維持の手段、ヘルスケアの分野です。人生100年時代と言われていますが、寿命が100年で

や「いいえ」で答えられる質問から始め、徐々に話す内容を深めていきます。言葉が被らないように間を空けるのもポイントです。診察前には排尿に関する評価シートを記入いただき、スマホで撮影した写真を送ってもらいます。ここで大事になるのが、職員の皆さんのオンライン診療をサポートする姿勢。横浜エデンの園は新たな診療への理解が早く、職員の育成にも力を入れており、とても協力的です。最終的には、ご入居者本人が自力でオンライン診療を受診できるようになればと思います。

**夜間排尿時に多い骨折
正常な排尿が健康寿命を延ばす**

75歳以上の95%以上が排尿に関する不安を抱えており、特に高齢者に多いのが夜間排尿に伴う骨折です。昼間は普通にできても、夜は寝ぼけてつまずいたり、座ろうとして尻もちをついたりします。骨折から入院し、認知症

も最後の10年が寝たきりでは意味がありません。健康寿命を100年にするため、オンライン診療は極めて重要です。「D-Free」をはじめ、オンライン診療を促進する機器や環境は、ここ10年で急速に進化しています。受診の負担を軽減し、疾病の早期発見を促し、専門医師から健康維持の的確なアドバイスを受けられるオンライン診療。現在、聖隷横浜病院で行っているのは泌尿器科のみですが、今後更に広げていく予定です。

**第四の診療体系から
オンライン診療中心の時代へ**

対面での外来診療、入院診療、訪問診療に次ぐ、第四の診療体系と言われるオンライン診療ですが、今後は外来や訪問の補完だけでなく、診療の軸足が対面からオンラインに移っていくと思います。健康診断や人間ドックの一部もオンラインに移行し、薬がオンラインで処方され、がん検診もキットを使って送る時代です。オンラインで診察できないものは対面へ。将来的には、全ての診療科の半分以上がオンラインに移行していくと私は考えています。

**高齢者のニーズに応えたい
他のエデンの園との連携も進行中**

私たち医療に携わる者にとって大切なのは、

が進行する例も少なくありません。更に骨折のリスクが高まる負の連鎖です。私の著書「丈夫で長生き 排尿から考える長寿の秘訣」の中でも説いています。排尿を適切にコントロールすることが骨折を防ぎ、健康で長生きできることにつながります。

**排尿予測デバイス
「D-Free」
横浜エデンの園でも
試験運用を開始**

当科では、患者さんの排尿誘導や排尿の自立を支援する排尿予測デバイス「D-Free」を導入しています。下腹部に装着することで、膀胱内の尿のたまり具合、排尿パターンをリアルタイムで把握できる機器です。「D-Free」のDは

時代に適応し、従来の診療に新しいものを取り入れ、患者さんのニーズに応えていくことです。特に高齢化が進む日本では、高齢者が何を求めているのかを的確につかむ必要があります。泌尿器科に30年以上携わり、「排泄は自分でやりたい。おむつや人の世話になりたくない」という多くの声を聞いてきました。健康志向が高い方には特に顕著なニーズです。

正常な排尿のコントロールが健康維持には欠かせません。エデンの園は聖隷横浜病院と同じ経営母体であり、ご入居者の健康維持は我々としても優先すべき課題です。現在、藤沢エデンの園、油壺エデンの園と泌尿器科のオンライン診療に向けて連携を進めています。オンライン診療に距離は関係ありません。今後は神奈川県外にも拡大し、全国のエデンの園のご入居者の健康維持に寄与できたら幸いです。

